

6. 今後の課題

アセットマネジメントの評価と、レベルアップに向けた今後の課題は以下のとおりである。

表6-1：改善方策

プロセス	評価基準	改善方策	
1. 必要情報の整備	1-1, 1-2 情報の収集・整理 データベース化	構造物及び設備の資産データが、更新工事の単位で整理されているか。 (標準型での検討が可能か。)	構造物・設備の資産計上は、建築、土木、機械、電気、計装に分けて行う。管路は口径、延長、管種(継手情報含む)別に行う。
		管路のデータが、布設年度別に集計できるか。(標準型での検討が可能か。)	実施済である。
		財政収支見通しの検討レベル。 (標準型での検討が可能か。)	今後の水需要予測の更新を、短期間で行う必要がある。
2. ミクロマネジメントの実施	2-1 水道施設の運転 管理・点検調査	更新基準(更新サイクル)が、これまでの維持管理の実態を踏まえて作成されているか。	建築構造物、配水池は定期的な外部・内部点検、更新5年前に詳細な調査、修繕を実施。
		構造物及び設備の機能診断を実施済みか。	実施済である。
	2-2 水道施設の診断 と評価	構造物及び設備の耐震診断を実施済みか。	評価済である。
	重要路線について、管路の耐震性評価を実施済みか。	基幹管路(配水本管は口径φ200mm以上)として評価済み。	
3. マクロマネジメントの実施	3-1 検討手法の選定	更新需要の検討手法が、データの整備状況等に基づいて適切に選定できているか。	今後はデータの蓄積により、施設規模の適正化を見込んだ検討を行う必要がある。(詳細型)
		財政収支見通しの検討手法が、データの整備状況等に基づいて適切に選定できているか。	老朽施設の増加に伴う修繕費の最適化を行う必要がある。
		重要度・優先度を考慮した更新基準となっているか。	優先度の高い施設が確認された場合は必要に応じ再構築・再編成を行う必要がある。
		更新時期の設定において、耐震化、機能改良が考慮されているか。	実施済である。
	3-2 更新需要の 見通し	更新需要の見通しが、健全度を踏まえて算定されているか。	健全度は日々変化するため、最新のデータに基づく調整を行う必要がある。
		健全度評価の結果は、維持管理で対応できる水準であるか。	経年化施設、設備に対する点検サイクルの検討が必要である。
		現行の事業計画は、更新需要の見通しから見て妥当なものであるか。	管路耐震化計画の策定後には、必要に応じ再構築・再編成を行う。
		更新需要の見通しから、問題点・課題を抽出し、地域水道ビジョン等の計画作成に適切に活用・反映されているか。	次回更新時において適切に対応を図る必要がある。
	3-3 財政収支の 見通し	現行の経営計画(財政計画)は、財政収支の見通しから見て妥当なものであるか。	妥当である。
財政収支の見通しから、問題点・課題を抽出し、地域水道ビジョン等の計画作成に適切に活用・反映されているか。		次回更新時において適切に対応を図る必要がある。	